



NU CST

TSE

空間情報技術の 歩行空間におけるバリア検出と歩道整備への 応用 を目指す研究

身体障がい者の外出時のバリアを発見したい！！

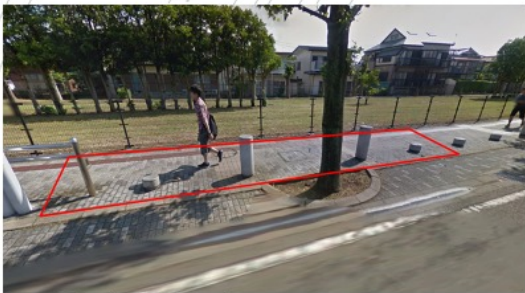
→3Dデジタルバリアマップ

(レーザスキャナを使用)を作成

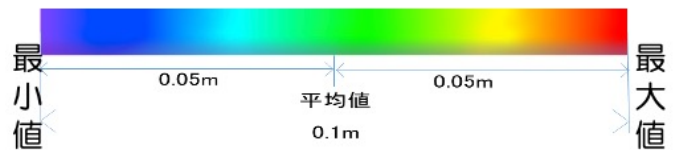
歩道と車道からレーザスキャナを用いて取得した3次元点群データを用いて段差・傾斜などバリア箇所を可視化(発見)を目指す。

歩道の、危険箇所の発見・認知することで、歩道のメンテナンスを効率化ができる。また、多視点型バリアフリーマップとして事前に提供するデータにも活用ができる。

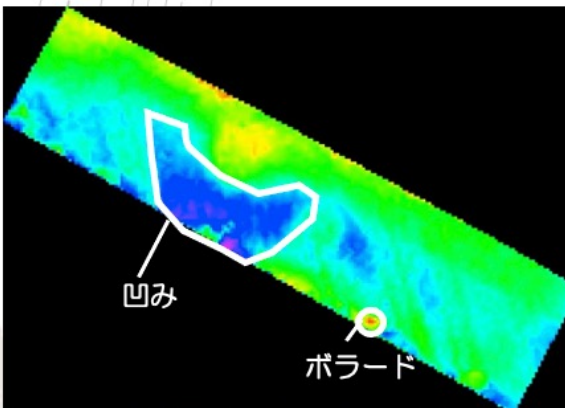
歩道平坦性の評価



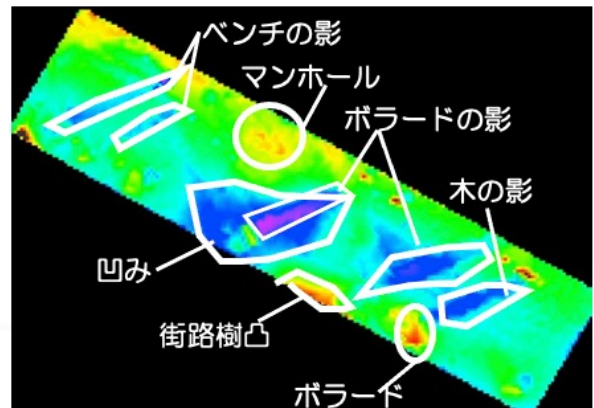
現地の写真



等高線図の最大値、最小値の設定



MX2 (歩道型MMS)



MX8 (車両型MMS)